

自分らしい 生き方の実現を目指して



都立特別支援学校における キャリア・パスポートの活用とキャリア発達支援

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「**キャリア発達**」といいます。そして、児童・生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲、能力や態度を育てる教育が「**キャリア教育**」です。

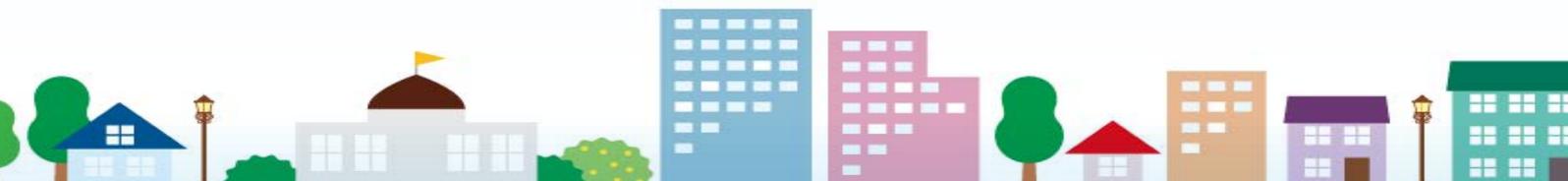
特に、特別支援学校のキャリア教育は、児童・生徒一人一人の実態に応じて、「自立と社会参加」を目指し、自分でやれることを増やしていこうとする意欲や態度をはぐくみ、卒業後の生活を視野にいれ、自らの生き方を主体的に考え、自己実現を果たしていこうとする能力や態度を育成することを目指します。

キャリア教育を進める上では、児童・生徒一人一人が、自らの学習状況や生活の様子を振り返りながら、個々のキャリア発達を促していくことができるようにする教育的働きかけが重要です。

そのため、令和2年4月から、全ての小学校・中学校・高等学校等において、児童・生徒が学習活動を記録し、蓄積する教材として、「**キャリア・パスポート**」の活用が始まっています。特別支援学校においては、小学校・中学校・高等学校等と同様に、障害のある児童・生徒が自らの学習や生活面での振り返りを行うことができるよう、支援と工夫をすることが必要となります。

本パンフレットで紹介するキャリア・パスポートの考え方や活用の仕方を参考にして、今後地域の小学校・中学校から引き継がれるキャリア・パスポートを学校生活支援シート（個別の教育支援計画）や個別指導計画と連携させて、特別支援学校における指導の充実を図っていきましょう。

令和3年3月
東京都教育委員会



◆キャリア・パスポートとは

キャリア・パスポートとは、児童・生徒が、自らの学習状況や日常生活等の振り返りをしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように工夫した教材です。特別支援学校においては、「学期の目標」、「一年のまとめ」などの形で、これまで各学校が児童・生徒の学校生活を充実させるために取り組んできたことを大切にしながら進めていくことが、スタートとなります。

児童・生徒がキャリア・パスポートを作成していく際に、自己を振り返るに当たっては、教員が児童・生徒の実態に応じて対話的に関わるようにしていくことが大切です。対話により、児童・生徒が、新たなことに気付き、自己の生き方につなげようとする力を養えるようにしていきましょう。

【キャリア・パスポートに関する学習指導要領上の規定】

○特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第1章総則 第5節1の(3) (高等部についても同様)

児童又は生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。(略)

○小学校学習指導要領 第6章特別活動 第2〔学級活動〕の3の(2) (中学校・高等学校についても同様)

(略) 指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

(下線部がキャリア・パスポートのことを意味しています。)

◆学校生活支援シート（個別の教育支援計画）とキャリア・パスポート

特別支援学校で作成している学校生活支援シート（個別の教育支援計画）にも、学校生活に対する児童・生徒本人の希望や願いを記載する欄があり、年度末に評価をすることで、支援の振り返りの記録として活用されています。その性格として、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）は、児童・生徒に対する支援を保護者等と共有する計画としての役割に重点が置かれています。

一方、キャリア・パスポートは、児童・生徒本人の意思や思いにより重点をおくとともに、児童・生徒が振り返りの際の教材として活用することにつなげることが重要になります。

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）の例

1 学校生活への期待や成長への願い（こんな学校生活がしたい、こんな子供（大人）に育ってほしい、など）	
本人から	学校で友達と仲良く過ごしたい。
保護者から	生活に必要な読み書きや計算ができるようになってほしい。
6 成長の様子	
学校だけでなく、交流先でも、友達にはたらきかけて、一緒に活動することができました。家族の名前や住所など、普段よく使用する漢字の読み書きが定着してきました。	
7 来年度への引継ぎ	
友達への誘いは、一方的になってしまうこともあるため、手本を示すなどの支援が必要です。書字の練習では、最初に十字リーダー入りのマスを使うとバランスよく書くことができます。	

児童・生徒によっては、キャリア・パスポートの項目の内容を理解することや、記載する内容を考え出すことが難しい場合もあります。このような場合には、教員が対話的に関わるのが大切であり、理解しやすい形で示した選択肢を児童・生徒が選ぶようにするなどの支援が考えられます。



キャリア・パスポートの例

○こんな自分になりたい！！

<p>こんな自分になりたい！！</p> <p>（学習面） かけるかん字をふやして、おじいちゃんに手がみをかきたい。</p> <p>（生活面） いろいろな人となかよくなって、友だちを多くする。</p> <p>（家庭・地域） きんじよの人にあげる。</p> <p>（習い事・資格・好きなこと） アニメを見ること</p>	<p>それにつなげること</p> <p>たくさんかん字のれんしゅうをする。手がみのかきかたをべんきょうする。</p> <p>その人の好きなことを、やさしいきかたでさく。</p> <p>自信んからさきに、大きなこえてあひさ</p>
<p>こんな5年生にしたい、べんきょうもあ</p> <p>先生から元気に まい日 どうこうし、友だちとなかよく すごせましたね。</p> <p>5年生としてがんばるこ</p> <p>休まずに元気に</p>	<p>えいきょうを受けた出来事</p> <p>テレビのアナウンサーのあひさつ</p> <p>家の人などからできることが ふえて きました。あひさつは つづけて がんばろう！</p> <p>来学期の自分へのメッセージ</p> <p>あさ、ねむいときでもあひさつがなげられ。</p>

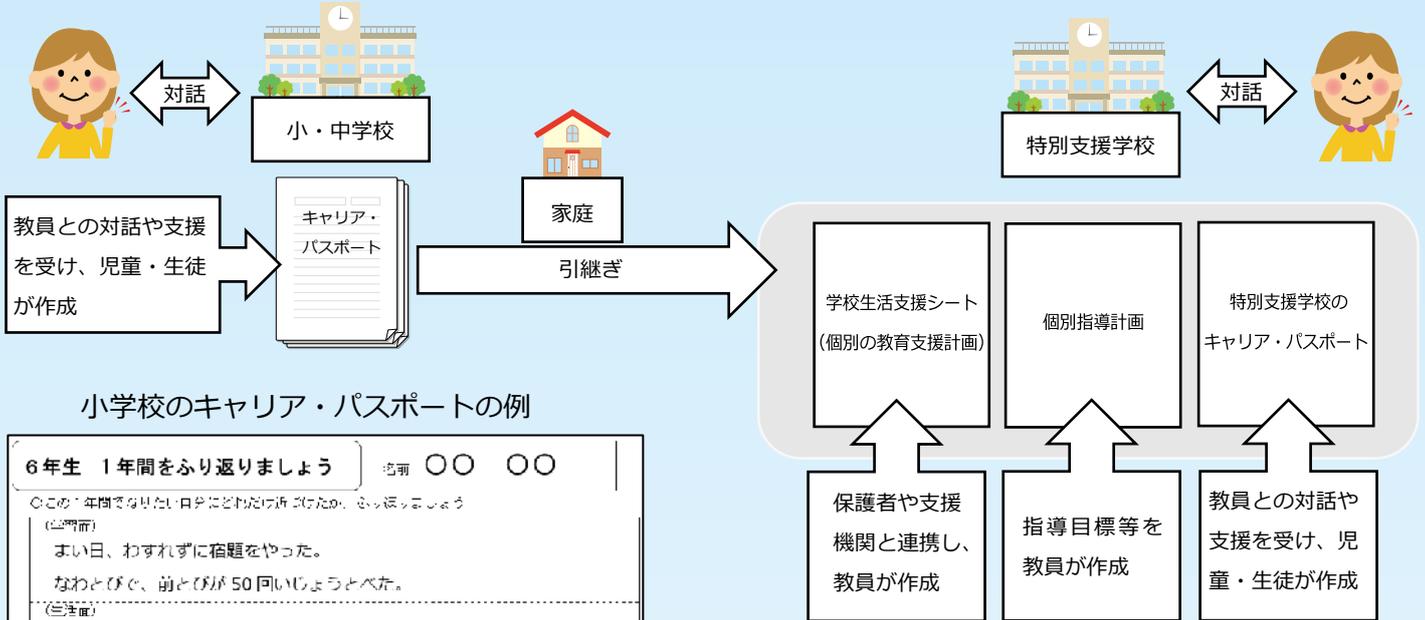
できるだけ本人が記入することで、児童・生徒本人が活用することの意識が高まります。



◆特別支援学校におけるキャリア・パスポートの活用

○ 地域の小・中学校からのキャリア・パスポートの引継ぎ

地域の小・中学校から引き継いだキャリア・パスポートを、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）及び個別指導計画の作成に活用します。



小学校のキャリア・パスポートの例

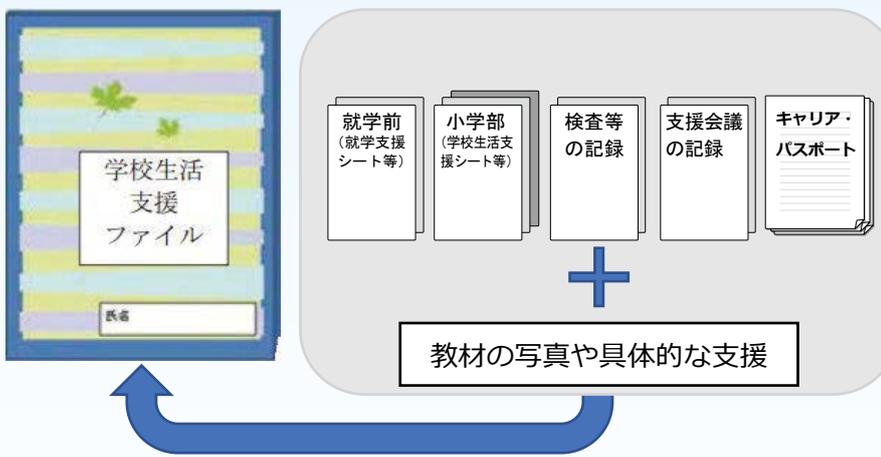
6年生 1年間を振り返りましょう	名前 ○○ ○○
この1年間でもっと自分を知りたいから、頑張ろうよ。	
(学習面)	まい日、わすれずに宿題をやった。 なわとびを、前とびが50回いじょうとべた。
(生活面)	早ね早おきがだいたいできた。
(家族や友達)	家の「伝い」をりすんでやることができました。
(得意なことや頑張ったことなど)	ピアノのれんしゅうをがんばって、発表会でうまくひけた。
来年がんばりたいことや学年のためにしたいこと、感謝したいこと	なかのよいクラスにするために、やさしいことばに気がついた。
1年生のわたしのメッセージ（学年日分が、長年日分がながっていきます。卒の思い出を人へ（18才）にわたした自分にもいじょうよ）	1年間べんきょうやピアノをがんばりました。りっぱな大人になれるようにこれからがんばるよ。

・児童・生徒との対話の際に、「好きなこと」や「いえのひとなどから」の内容を参考に話を聞き取ることで、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）の「本人のねがい」に反映させることができます。

・「学習面」や「生活面」のこれまでの振り返りの気づきを、個別指導計画を作成する際の参考とすることができます。

○ 引き継いだキャリア・パスポートの保管

地域の小・中学校から引き継いだキャリア・パスポートは、学校生活支援ファイルに保管するようにします。



【学校生活支援ファイルに入れる書類等の例】

- 就学支援シート
- 学校生活支援シート 経年のもの（小学部低学年）現在のもの
- 個別指導計画
- 検査等の記録
- 支援会議の記録
- 使用している教材の写真・具体的な支援の方法
- 障害の種別等により必要な記録
- 社会資源の利用一覧
- 入院・通院の記録
- 学習プリントの例
- **キャリア・パスポート**

◆キャリア・パスポートの書式例

【特別支援学校 小学部版】

年度当初に使用する書式例

〇ねんせい あたらしいがくねんです！ なまえ

〇いまの「じぶん」についてかんがえてみましょう。

(しゅしん・にがえ)

「じぶん」のよいところ・とくいなこと

すきなこと・むちゅうになっていること

〇こんな「じぶん」になりたい!!

がっこうでの じぶん	こんな「じぶん」になりたい!! べんきょうでは・・・	そのためにすること
	こんな「じぶん」になりたい!! せいかつでは・・・	→
いえでの じぶん	こんな「じぶん」になりたい!! いえでは・・・	→
		→

せんせいから

いえのひとなどから

振り返りの際に使用する書式例

〇ねんせい「じぶん」をふりかえりましょう なまえ

〇なりたい「じぶん」になれたかな?

	1がっき	2がっき	3がっき	1ねんかん
がっこうでの じぶん 	べんきょうでは・・・			
せいかつでは・・・				
いえでの じぶん 	いえでは・・・			

〇ねんせい、いちばん「たのしかったこと」や「がんばったこと」

せんせいから

いえのひとなどから

〈作成上の工夫例〉

- ・「こんな『じぶん』になりたい!!」の欄を記入する際には、文字での記入だけでなく、各校で使用している授業や活動の絵や写真などを使用することが考えられます。
- ・「せんせいから」や「いえのひとなどから」の欄には、担任や家の人などの顔写真を貼り、誰からのコメントかを分かりやすくすることもできます。
- ・「ふりかえり」では、校内で共通の「ふりかえりマーク」を作成・活用することで、「なりたい自分」に対する自己評価の仕方や理解の定着を促すことができます。
- ・「ふりかえり」は、「できた・できない」だけでなく、「〇〇までがんばった」「もう少しでできそう」「助けをもらってできた」など、肯定的に捉えられるようにします。
- ・使用に当たっては、年度当初に使用する書式と振り返りの際に使用する書式を見開きで印刷する、学校独自の名称とするなど、活用しやすく工夫をします。

○キャリア教育と特別支援教育

「キャリア教育」は、児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組への支援が求められる、特別支援教育に共通する概念です。

「特別支援教育」は、学校段階における教育ですが、キャリア教育は、学校卒業後も生涯にわたって自己のキャリア発達を促していくことができるようにするための教育的営みであるという違いがあります。

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）や個別指導計画などでキャリア・パスポートの目的を兼ねる場合、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）や個別指導計画が教員によって作成されるのに対し、キャリア・パスポートは児童・生徒が主体となって作成し、自己の振り返りに活用されるものであるということに留意する必要があります。

○キャリア・パスポートを活用したキャリア教育の充実に関する参考資料

- ・「自分らしい生き方の実現を目指して キャリア・パスポートを活用したキャリア教育の充実に向けて」 令和2年4月東京都教育委員会
- ・「キャリア・パスポートって何だろう？」 文部科学省

【印刷・発行】東京都教育庁指導部特別支援教育指導課

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号

東京都教育委員会印刷物登録

令和2年度 第147号

